

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム「箱根山」(西棟)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391000114		
法人名	医療法人 勝久会		
事業所名	グループホーム「箱根山」(西棟)		
所在地	〒029-2207 岩手県陸前高田市小友町字猪森77		
自己評価作成日	令和2年9月22日	評価結果市町村受理日	令和2年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人のその人らしさを大切に生活が送れるような施設作りに取り組んでいる。外食やドライブ、一時帰宅などの外出支援をし施設にこもらないように援助している。毎年地域の保育園や小学校などの慰問を受け入れ交流を図っており、共同生活の楽しみを実感してもらえるように努めている。リビングなどに床暖房、全居室にエアコンを設置しており、とても暖かく、全面バリアフリーで安心して過ごせるようになっている。また、高台に位置しておりリビングから見える田園風景はすばらしく快適に過ごせる環境が整っている。法人の医療・福祉に関する総合的なバックアップがあり、研修会も定期的に行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

陸前高田市小友地域の小高い丘の中腹に位置し、周辺には田畑が広がり、東日本大震災において被災した箇所は、桜ラインが敷かれている。近傍には保育園、小、中学校があり、文化祭や運動会など日頃から交流を重ねている。コロナ禍においても、保育園児がチューリップの球根を届けてくれるなどの交流がある。法人が運営する医療機関、老人保健施設、介護保険関連施設との連携も深く、利用者の日常の健康管理、状態の急変時等の対応が可能であり、利用者や家族に安心感を与えている。毎年の家族アンケートを通じて、利用者家族の思いを把握し業務に生かし、充実した介護事業サービスを提供している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年10月21日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに事業所の基本理念を掲示し、その理念を職員間で共有している。また、新職員が入ってきた時はその都度、基本理念を説明している。	法人の理念を基礎として、事業所の理念を作った5年を経過した。日頃から職員間で共有し、研修や日々のミーティングを通じ、利用者の生活ペースに合せながら寄り添う介護を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭への作品の展示や近隣保育所の散歩コースとなっており、毎月保育所だよりを届けに来てくれるなど交流を図っていたが、コロナウイルス発生により交流が現在なくなっている。	津波の到達点に桜を植える活動をしているNPO法人があり、事業所前の桜の手入れと一緒に参加した生徒等が合唱を披露してくれ、利用者を和ませてくれた。保育所、小学校との交流は、コロナ禍により中止が余儀なくされているが、先日、保育園児がチューリップの球根を届けてくれたように心の交流は続いている。	コロナ禍により、保育園との交流が中断していますが、相互にメッセージを交換するなど、継続した交流に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生のふれあい体験や慰問の受け入れなどを通して、認知症の人の理解や支援の方法を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	保育所や小学校の感染症の流行情報や避難訓練に対する助言などを業務に反映させている。	認知症家族の会代表、利用者家族、消防、小学校、保育所、近隣住民、公民館長、市役所、利用者代表のメンバーに加え、今年度、警察職員も委員となっている。会議を通じ委員の認知症に関する理解も深まっている。事業所では、防災、防犯に関連する提言を運営に活かしている。現在、コロナ禍で書面会議としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修会に参加しているほかに、市担当課職員や生活保護の担当職員と直接市役所へ出向き、相談や報告、メールのやり取り等をし連携を図っている。	市担当課とは、電話やメール等で連携を図っている。地域包括支援センターが事務局の「けせんの和」主催の研修会に参加し、業務に活かしている。運営推進会議には毎回市役所職員の参加があり、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設・法人の研修会への参加やスタッフミーティングと一緒に身体拘束の事例などを話しあっている。玄関の施錠は夜間以外はせず開放している。	法人全体での身体拘束ゼロ宣言に沿って実践している。身体拘束防止適正委員会としてスタッフミーティングを開催し、法人としても年2回の研修会を予定している。玄関は夜間のみ施錠し、家族の了解の下でベッドからの転倒防止対策として、夜間は人感センサーを使用している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「箱根山」(西棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日頃から入居者の尊厳を守り、ともに支え合っていく事が虐待の防止に繋がると考えている。法人内の虐待防止の研修への参加や虐待防止のパンフレットや資料などを閲覧するように職員に促している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度のパンフレットや資料などを閲覧するように職員に促している。実際に日常生活自立支援事業を利用している入居者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者、家族が不安に思っていることや疑問に思っている事を伺って、わかりやすく説明し不安解消に努めている。その都度不安や疑問などがあれば再度丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人のホームページの「問い合わせ」や待遇委員会のアンケートで意見・要望を伝える事ができ、また面会時などでもご家族から意見を聞くようにしている。	法人の待遇委員会において年1回、利用者家族へのアンケート調査を行い、6割の回答を得ている。その中で職員の電話対応についての改善要望があり、職員間で早速、周知徹底した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや毎月開催しているスタッフミーティングや年一回の個人面談等で各職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月の全体ミーティングの他、ユニット毎のミーティングで職員から意見要望を聴く機会を設けている。最近ではコロナ禍により利用者のストレスを解消する行事や外出の配慮・工夫についての意見があり、食事会をお弁当に変更するなどに配慮した。年1回の職員個別面談では、資格取得の要望などが出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ノー残業デーの設定や産休・育休などがとりやすい環境に努めている。また介護福祉士などの国家資格を取得した場合に給与や賞与の支給額に反映される仕組みになっている。		

事業所名 : グループホーム「箱根山」(西棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で行われる定期的な研修会への参加やグループホーム協会で行われる研修、認知症介護実践者研修などに参加させ、その研修の報告を行い情報の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の地域密着型サービス協会の研修会や沿岸南ブロック定例会に参加し、その中で他のホームの職員との意見交換を行いサービスの質の向上につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前までの関係機関からの情報やホームに見学に来た時など、ご本人やご家族の希望や訴えを傾聴し、その中で何が必要で、どうして欲しいのか、スタッフ間で話し合い、安心して過ごせるようにコミュニケーションを図り、不安を取り除き信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の抱える問題、意見などをお聞きしそのニーズに応えられるように、誠意を持った対応と安心してホームに任せていられると言って頂く為にも、きちんと内容を説明させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用の際は今までの生活スタイルを崩さないように、安心してホームで過ごせるようコミュニケーションを図ったり、不安がないか傾聴し、その人らしくホームの生活に慣れ親しんでいく対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームを自宅と捉え、一人一人の生活感や個性に応じた家事や草取りなどを職員と一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当者から連絡表や面会時本人の情報を伝え、ホームのイベント(夕涼み会、敬老会、クリスマス会など)には参加の協力を依頼し交流を図ったり、可能のご家族には病院受診をお願いして入居者の健康状態を共有・把握し関係を築いている。		

事業所名 : グループホーム「箱根山」(西棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者についてはスタッフが把握出来るよう本人との関係を記録している。又、ドライブで地元の景色を見たり、地元の新聞から話題を提供し地域を思い出して頂く工夫をしている。	家族、知人の来訪はコロナ禍による面会制限により、大幅に少なくなっている。散髪は馴染みの床屋に来てもらい、ミニドライブでは車から降りることを避けて景色風景を楽しんでいる。月1回の移動図書館を利用している方が3名いて、事業所周辺の散歩は自由に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者に家事等を分担して行って頂くことで、入居者間の関わりが見られている。利用者同士の関わりが難しい時は、職員が間に入りトラブルを未然に防いでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて連絡等を行うなど、必要に応じてフォローアップを出来るように努めている。個人情報に配慮しながら、外部であった際には挨拶や会話を持つ機会がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご家族に生活歴を伺い、それを基にしながら入居者からも情報を得て意向の把握に努めている。困難な場合は表情を見極め検討している。	利用者のほとんどが意思疎通ができ、思いや意向の把握は概ね可能である。本人から確認できない場合には、居室担当が中心となり本人の表情や生活歴から思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家庭などを訪問して生活の様子をお伺いしている。ご本人やご家族、ケアマネジャーからの情報を集めるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態観察を行い、日々の記録にも努め、職員間で周知徹底するようにしている事で、小さな変化にも気付けるように努めている。定期的に看護師に健康チェックをしてもらい、心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の日常生活での言動や意向を大切にしながら、ご家族やご本人の希望を尊重し介護計画を作成している。毎月のモニタリングにて現状の把握と介護計画へ反映させている。	介護計画は、月1回のモニタリングを実施して、6ヵ月毎に見直しを行い、本人家族の同意を得た上で本人に渡している。見直しに当たり、本人から畑を作りたい、草取りをしたいなどの思いを取り入れ、生活のペースを大切に介護計画の作成を心掛けている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「箱根山」(西棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の言葉や活動状況を記録や申し送り等で確認しながら、介護計画の見直しを図っている。計画を実践しながらも職員間で情報の確認をしていき、ケアの向上を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望をお伺いし外出を勧めている。買い物代行や通院介助などもご家族の状況に応じて行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭への作品の展示の為、作品作りを行っている。通常であれば、小学校の学習発表会の見学など地域の方々との交流に努めているが、今年はコロナウイルスの流行により交流は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望されるかかりつけ医に受診している。受診の際には、職員対応とご協力を頂けるご家族には、経過報告を記載した受診連絡表をご持参頂き、通院して頂いている。	入居前の内科、泌尿器科、眼科、精神科等のかかりつけ医を受診しており、原則は家族同行としているが遠距離に居住する場合や、家族の都合などにより職員が同行している。週1回訪問看護ステーションの看護師による健康管理があり、月1回は歯科衛生士による歯科保健の対応を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師が健康指導を行っている。体調不良時や緊急時など相談し助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、入院先へ情報提供書を提出し退院時に病院から情報を頂いている。定期的にご家族にも連絡し状態の確認を行っている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム「箱根山」(西棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調不良やADLの低下が著しい場合などは早期にご本人・ご家族と終末期について話し合いを持ち、情報の共有をしている。母体である老人保健施設やクリニックへの入所・入院を希望する方が多く、相談員と連絡を取り合う事も多い。	事業所内では、終末期に向けた方針を作成し、家族等の希望があれば看取りを行う体制は整備されている。職員の教育やメンタルケアについては、看取りを経験した職員も多く、対応できる状況にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が救命講習の研修に参加しスキルアップにつなげている。訪問看護との連携し指導を受けて実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回昼間・夜間を想定し火災発生時の避難訓練を行っている。又、運営推進会議などで地域、消防、ご家族との関係性を深め協力を求めている。	10月に火災を想定した避難訓練を実施した。秋には夜間想定避難訓練を予定している。ハザードマップでは浸水区域に該当していないが、食料を3日分確保し自家発電装置等もある。発災時には法人内の緊急メールで職員を呼び出す体制も整備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや人格の尊重に心がけている。定期的に接遇の勉強会に参加して、対応の仕方・言葉使い話し方・気遣いなど相手を尊重した接し方を勉強している。	居室に入る際のノック、声掛け、返事を待ってから入室を心がけており、利用者を「さん」付けて呼んでいる。トイレ誘導時は、耳元で他の利用者に聞こえないような声掛けを行なっている。職員は長く介護をしていると親近感や馴れ合いが生じがちなため、年配のスタッフほど、言葉遣いに配慮してもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	どうしたいのか？何をしたいのか？自己決定出来るような、声掛けを行うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合や時間時間での作業とならないように、利用者の本人のペースでの生活が出来るように、心掛けている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「箱根山」(西棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	長くに渡ってなじみの理髪店に年4回程来て頂いて、ご本人の希望に沿ったカットにしている。個々の入居者の希望にそった服装にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感が感じられる様な旬な食材を取り入れたメニューを提供し食べる楽しみを持って頂いている。出来る入居者には、食器洗いやテーブル拭きなどの後片付けをお願いしている。	献立は法人の管理栄養士から栄養価、バランスのアドバイスをもらい、両ユニットそれぞれで調理している。利用者には片付けを中心に食器洗い、拭き方、おやつ(饅頭、ホットケーキ、粉もの)を担当してもらっている。季節感のある、おはぎ、ぼたもち、流しそうめん、サンマ焼き、誕生会食など、行事食は特に、食事を楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事・水分摂取量の把握に努め、個々に合わせ刻み食や水分にトロミを付けて提供している。水分や食事摂取量が足りない方には、ゼリーや補助食品などで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士と連携を取り、毎食後うがい、義歯洗浄を行い口腔内の清潔保持に努めている。本人が出来ない場合職員が行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握しトイレに行きたい時の行動を見守り、一人で行けない方には声掛け、誘導を行い、身体状況に応じた介助を行っている。	2ユニット全体で排泄の自立3人、リハビリパンツ使用が15人になっているが、個々に排泄パターンを把握し、職員が適時にトイレ誘導し、自立に向けて働きかけている。夜間はおむつ使用1人、パット2人で原則トイレへ誘導している。自室にトイレがある部屋は8室、二つの居室で一つのトイレが使えるように、トイレは多く設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の体操や乳製品の提供、水分を増やす等便秘予防を行っている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム「箱根山」(西棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員が一对一で対応し声掛けしながら楽しく入浴できるよう取り組んでいる。入浴したくない時にはシャワー浴や熱がある時は清拭を行うなど清潔に過ごせるよう支援している。	週に2回入浴できるよう配慮し、東棟は、火、木、土、西棟は月、水、金の午前、午後の入浴としているが、体調等によりその都度柔軟に変更している。土曜日は予備日としている。更衣の準備などは自主的に対応してもらっている。利用者と職員がマンツーマンなためか、会話も弾み、昔話が出てくることもあり、ゆったりと落ち着いた時間を過ごし、互いの関係性を深めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンを理解し、プライベートな時間を穏やかに過ごせるように支援している。疲れが見られる時や昼食後に希望する場合はベッドに横になって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬が変更された場合は伝達周知し、服薬後変化があった場合は、訪問看護師に報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の入居者の生活歴、好きな事、能力を把握し、それを活かして掃除や縫い物などを手伝って頂いたり、やりがいのある生活できるよう支援している。また、外を散歩したり、馴染みの場所や季節に合わせた場所などにドライブ等をして気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を望まれる入居者に対しては、体調や気候などを考慮して対応している。コロナウイルス感染対策をしっかりと行い、ドライブやご家族の協力を頂き、病院受診や美容院などに外出される事もある。	散策やドライブでの外出は、コロナ禍により大幅に制限され、室内で過ごす時間が多くなっている。8月に折り紙でひまわりを作り、差し入れの梅で梅干を作り、テレビを見る時間には広田町の五年祭のビデオを鑑賞し好評であった。夕涼み会は例年と違って利用者と職員だけだったが、スイカや焼き鳥をいただき、花火も打ち上げ、盛り上がったひと時を過ごすことが出来た。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは基本的に職員が管理とさせて頂いている。ご本人から欲しい物や必要な物などの要望があれば、一緒に買いに行くこともあったが現在はコロナウイルス感染防止対策の為出来ない。ご家族には毎月送付する連絡表にて出入金を把握して頂いている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム「箱根山」(西棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族の協力を仰ぎ、ご本人の協力があれば、電話や手紙のやりとりが出来るように支援している。お正月にはホームから毎年賀状を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や生活感を感じて頂けるように、リビングや廊下、入居者居室の入り口などに壁面飾りを飾ったり(リビングは一ヶ月に一回飾り付けを変えている)、玄関には季節の花を置いたりしている。温度・湿度はエアコンで管理し、適切な環境を保っている。	南向きの大きな窓から陽が入り、開放感がある。毎月、利用者の作成した作品を掲示しており、ハロウィンや紅葉が飾られて季節を感じられる。エアコン、床暖房により温度管理は適正に行なわれ、水道はセンサー式でペーパータオルを使用し、感染対策にも安心感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をする席以外は入居者の自由にされている。好きなソファの席でテレビを観たり、入居者同士や職員とレクをしたり、会話を楽しんだりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が以前より使っていた物、なじみのある物を積極的に居室内に取り入れ、入居者が少しでも居心地良く過ごせるように工夫している。家族写真や入居者が作成した作品を飾り、生活感を感じられるよう努めている。	ベッド、エアコン、床頭台、洗面台が備え付けになっている。トイレは両ユニットとも4カ所あり、2室で1カ所のトイレを使用している。各自が持ち込んだ思い出の品、馴染みの物で部屋を飾り、福田こうへいのポスターを貼っている方もいるなど、自分の部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており安全面を考慮した作りとなっている。職員も入居者の状態に合わせて付き添いや手引き歩行を行うなど、入居者一人一人に合わせた対応をしている。又、入居者に役割を持って頂き、職員の家事をする等「出来る事」を活かせるように配慮している。		